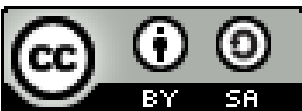




2022年11月10日（木）

越境シンポジウム 第7回「ナショナルミニマムを形成するために」
話題提供

県立長野図書館が目指す図書館DX ～ナショナルミニマムを形成するために～ 「デジタル・アーカイブ」の拡充と「電子書籍サービス」の導入を中心に



県立長野図書館 森 いづみ

※「図書館DX」というキーワードを初めて知った文献：『LRG』第32号（2020年09月25日）
伊藤大貴の視点・論点 第10回「ニューノーマルにおけるこれからの図書館－オンラインとオフラインの境界のない世界へ」

※越境シンポジウムにおけるナショナルミニマム 「すべての国民が最低限享受できるべきサービスとしての社会教育」

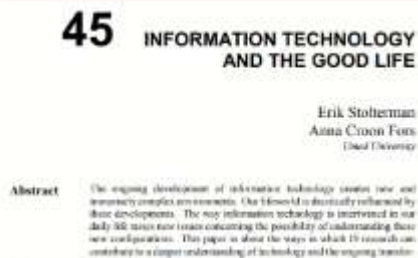
デジタルシフト→DX (デジタルトランスフォーメーション) +DC (デジタル・シティズンシップ教育)²

DXの定義

2004年
E. ストルターマン&A. クルーン
スウェーデン・ウメラ大学

ICTの浸透が、人々の生活(人生)をあらゆる面でよりよい方向に変化させること

- 哲学的(ソクラテス的)な概念
- 松尾芭蕉の「不易流行」(流行にこそ不易の本質がある)
- SDGs、ウェルビーイング、ウェルネスなどの考え方に共通点



DX

私たちの社会や生活を「よりよい方向」へ変化させる

DXを達成するには、単なるICTの普及ではなく

「ICTの健康的で、幸福な普及」が必要

そのためには、教育の力も必要

DC

デジタル・シティズンシップ教育
(デジタル時代のよき市民を育む教育)

※典拠 芳賀高洋氏(岐阜聖徳学園大学)

「学校教育DXとデジタル・シティズンシップDC」

https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/003/927/2021-5siryou1.pdf

DXに至る3つの段階

第1段階 アナログの情報を、デジタル情報に変換する

★日本社会、とりわけ、日本の学校教育は長らく、この第1段階で停滞してきた

第2段階 組織や構造のプロセスをデジタル化する

第3段階 社会と私たちの生活がよりよい方向に変化

1

図書館等の文化・社会教育施設が所蔵する資料のデジタル化・公開

2

サービスや業務、活用のプロセスがデジタル化されていく

3

文化・社会教育施設のさまざまなリソースがデジタル化されることで、オンラインはもちろん、リアルな場での利便性をも高め、両者の垣根をなくしていく

コロナ禍で起こったことー図書館に対する社会の反応

● 2020年4月、相次ぐ図書館休館へのメディアの反応

- ✓ 信濃毎日新聞. 斜面「どんな本が好きですか？」シェークスピアを愛する青年は「ハムレット」と答えた(2020年4月19日) シリア内戦下の若者が地下室に作った「戦場の秘密図書館」を紹介。戦争にも例えられる**コロナ禍で図書館の休館が相次ぐ状況を、「残念に思う人は少なくないだろう。図書館は『知る権利』や心の自由を保障している施設なのだから」と憂慮。**

- ✓ 朝日新聞デジタル. 「**図書館は動き続ける 宅配で本を貸し出し、試み広がる**」(2020年5月8日) <https://www.asahi.com/articles/ASN5833Q9N57UTIL02R.html>

✓ 再開後：

コロナ対策を行いながらの開館：不安もありつつ日常が戻った明るいニュースとして、多数報道。「来館者名簿」と「プライバシー」の葛藤についての報道も多数

● 2020年4月～5月（第1回目の緊急事態宣言→休館）

- ✓ 全国の公共図書館休館率：約92%
- ✓ 長野県内公共図書館休館率：約70%、相互貸借実施率：50%
- ✓ 県立長野図書館貸出率：5%（95%減）

図書館は動き続ける 宅配で本を貸し出し、試み広がる

有料会員記事 | 新型コロナウイルス
伊藤和村 2020年5月6日 11時00分



新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全国の図書館の休館が長引いている。政府が4日に示した方針で再開は認められたが、終息が見通せず。二の足を踏む図書館が多い。そんな中、本の宅配サービスを始める図書館が出てきている。

「#図書館は動きつづける」。長野県立長野図書館（長野市）は4月22日、そう掲げて、宅配による本の貸し出しを始めた。全国に緊急事態宣言が広がり、18日までの来館サービスを休止。政府の再開後も「安全を守るため」と、今月15日まで延長する。

#図書館は動きつづける

「お取り寄せ」貸出サービスの実施
(通常、館外貸出しない参考図書も含め、送料実費で宅配)
ゼロにはならなかったが・・・

※森いづみ、中村竜生. ウイズコロナ時代の公共図書館を模索する：県立長野図書館の取り組み(特集 コロナ禍における図書館の現在)「図書館雑誌」114巻9号, 491-494. (2019.8)

<http://hdl.handle.net/10091/00022332>

コロナ禍で考えたこと – 社会的機能の再確認、何をどのように実現すべきか

- 休館→部分開館・サービス再開を進めながら考えたこと
 - ✓ **コロナ休館は大きなショック**
 - しかし、もともと充分だったのか。「元に戻す」のではなく、発想の転換が必要
 - ✓ **既にあるものを最大限生かし、足りないものを補う**
 - 出来ることは、速やかに。出来ないとすれば、代替手段はないか
 - 何が足りないのか、どうすればできるのか、誰がやるのが一番いいのか。知恵を出し合う
 - ✓ **短期的方策**
 - メッセージを出し続けること（#図書館は動き続ける、saveMLAK、信州知の連携フォーラム）
 - 本のお取り寄せサービス（再開後も細々と継続）
 - オンラインデータベースの遠隔利用交渉（17DB中、1DBのみ職員の遠隔利用を許諾）
 - 電子申請による利用登録の開始（県による「ながの電子申請サービス」を活用）
 - メールフォームによるレファレンス（積極的に活用）
 - イベントのオンライン化→ハイブリッド化
 - ✓ **中期的・長期的な方向性を見える化して共有する（まずは館内→県内公共図書館・関連機関）**

コロナ禍で実践したこと – 社会への（自分たちへの）メッセージ

saveMLAK（2020年5月25日）

saveMLAKの呼び掛け

- saveMLAKの呼び掛け「災害への『しなやかな強さ』を持つMLAK機関をつくる」
 - ✓ 安全な来館利用の再開: 被害拡大に歯止めがかかってくる段階において、MLAK機関の施設としての再開を図りましょう。安心と安全を第一とし、再開の是非や方法は科学的かつ客観的に判断しましょう。
 - ✓ 非来館利用の促進: 同時に情報・知識のデジタル化・ウェブ化・オープンアクセス化をさらに進めましょう。
MLAK機関を来館・非来館のいずれでも、常に同等の利用が可能な機関へと進化させていきましょう。
 - ✓ 2分法を超える融合: 来館・非来館という2分法ではなく、実空間と情報空間が融合した未来のMLAK機関の理想を追求していきましょう。

※saveMLAK. 呼び掛け「災害への『しなやかな強さ』を持つMLAK機関をつくる(2020/05/25)

<https://savemlak.jp/wiki/CallForResilience>

※森いづみ、子安伸枝。ごぞんじですか？(第120回) saveMLAKとCOVID-19: しなやかに動きつづけるプロジェクト「専門図書館」(301・302), 92-95 (2020.10)

苦悩のさなかで救いになった。
図書館運営の指針の一つに。

信州 知の連携フォーラム（2020年6月4日）

「信州 知の連携フォーラム」からのメッセージ

- 過去・現在を未来へと架橋する～「知のインフラ」を考えていくために
 - ✓ 2020年の冬から、新型コロナウイルス感染症が世界中を席卷し、初夏が訪れた現在も、甚大な影響を及ぼし続けています。この感染症に関連して、亡くなられた世界中の方々に哀悼の意を表します。また、医療現場をはじめとする最前線の仕事に従事されている方々に深く感謝するとともに、私たちも含めたすべての生活者に、平穏な日常が戻ることを願っております。
 - ✓ 私たちは今、新型コロナウイルス感染症対策の只中にいますが、過去には何度も、人類を脅かす感染症との闘いの歴史がありました。私たちは、先人の経験・叡知を礎にして、幾多の危機を乗り越え、社会の営為を積み重ねて来ました。この営みが形になった現物としての史・資料を、収集し、保存し、整理し、発信する役割を担っているのが、博物館・美術館、図書館、文書館などの文化施設、MLA (Museum, Library, Archives) です。今現在、この時も、記録し、保存されていく対象です。私たちMLAには、過去・現在を、未来へと架橋する責務があります。

※長野県プレスリリース(2020/06/04)

https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/happyou/library/200604_mlmessage.html

渡邊信州大学前図書館長の
Facebookをきっかけに。

※森いづみ MLA連携の可能性: 「信州 知の連携フォーラム」の実践を中心に 令和2年度ミュージアム・マネジメント研修講義VI【社会教育施設の視点から】(文化庁) 2020年12月17日 <https://researchmap.jp/izumimi/presentations/31426982>

コロナ禍で実践したこと – 社会への（自分たちへの）メッセージ

「信州 知の連携フォーラム」からのメッセージ

- 過去・現在を未来へと架橋する～「知のインフラ」を考えていくために(つづき)

- ✓ しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策において、2020年4月から5月は、長野県内でも多くの社会活動が休止されました。MLAは、展示や資料・情報の提供、生涯学習・学校教育の場としての活用、収蔵物の保存も含め、いわゆる「三密」の環境を有しています。人々の健康と命を守ることが最優先である状況下、公衆衛生の観点からMLAも多くの施設と同様に、休館を余儀なくされました。この間、人々の生活に不可欠な文化施設として、それぞれの館が「オンラインでできること」等を工夫し、情報を発信し続けました。しかしながら、その役割を十分に果たすことができたとは言えない状況です。
- ✓ 一方で、コロナ以前から、インターネットの普及は、MLAが相互に関わりながら新たな文化的貢献を果たす可能性を開いています。信州大学附属図書館、長野県立歴史館、長野県信濃美術館、県立長野図書館は、2016年に「信州 知の連携フォーラム」を発足させました。「長野県における知と学びに関わる各種機関が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく」ことを目的とし、議論と実践の場を設けてきました。

※長野県プレスリリース(2020/06/04)
<https://www.pref.nagano.lg.jp/>

「信州ナレッジスクエア」を意味付け。ただし、**デジタルアーカイブさえあればMLA機関の機能が果たせるわけではない。というのは大前提。**異なる価値観を持つ隣接機関からの共同メッセージとして「デジタル情報をきっかけに現物を知るナビゲーションの役割」を明記

「信州 知の連携フォーラム」からのメッセージ

- 過去・現在を未来へと架橋する～「知のインフラ」を考えていくために(つづき)

- ✓ その成果が「知のインフラ」として形になったのが、2020年4月1日に県立長野図書館からリリースした「信州ナレッジスクエア」です。自宅等に居ながらにして、「信州」を切り口としたMLAの情報探索が可能です。また、デジタル情報をきっかけに現物を知るナビゲーションの役割をも果たすものであり、今後さらに内容を充実させていく予定です。
- ✓ MLAの活動が止まることは、楽しみを失うばかりでなく、未来を失うことに他なりません。withコロナと呼ばれる時代にあって、私たちは「信州 知の連携フォーラム」を通じて、皆さまとともに、新しい「知のインフラ」のあり方を考えていきたいと思っています。皆さまのご支援を引き続き賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

信州 知の連携フォーラム

信州大学附属図書館長	渡邊 匡一
長野県立歴史館長	笹本 正治
長野県信濃美術館長	松本 透
県立長野図書館長	森 いづみ
前県立長野図書館長	平賀 研也

※長野県プレスリリース(2020/06/04)
<https://www.pref.nagano.lg.jp/>

長野県からのプレスリリースであることに意義。各館ウェブサイトでも公表していただいた。MLA連携による「**ナショナルミニマム**」を意識。

信州 知の連携フォーラムとは

「信州 知の連携フォーラム」とは

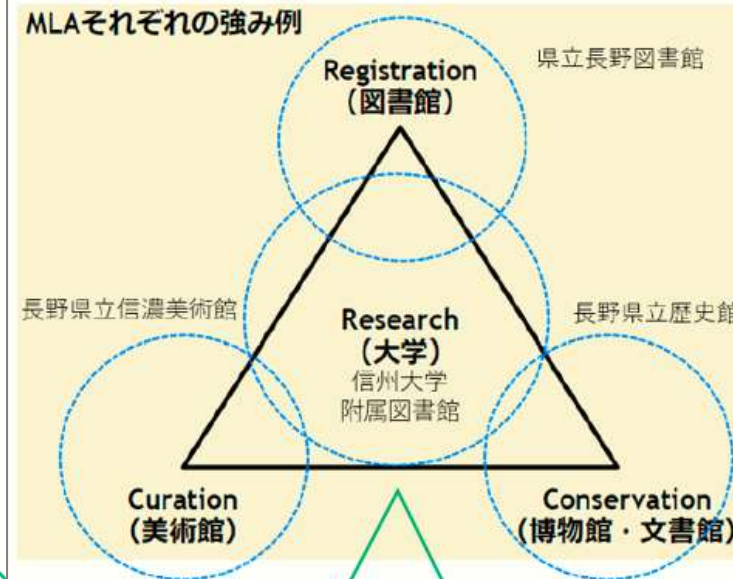
- はじまり
 - 2016年、長野県立歴史館、長野県信濃美術館、信州大学附属図書館、県立長野図書館の四者でスタート
- 目的
 - 長野県における知と学びに関わる各種機関が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく
- 方向性
 - ① 電子情報の共有化と新たな発信の展開
 - ② ①に伴う新たな人材育成

当時お茶大で学内MLA連携を担当→キックオフのフォーラムに参加

四館長のそろい踏み
⇒新しいことが始まりそう！

※森いづみ他、「信州 知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み：長野県内の図書館・美術館・歴史館の取組。大学図書館研究. 112 < <https://doi.org/10.20722/jcul.2041> >

「信州 知の連携フォーラム」とは



大学図書館にとっては、地域の「研究・教育」を担う機関として、「地域貢献」の意義が大きい

- Registration (登録)
- Curation (価値付け)
- Conservation (保存)
- Research (研究)

- 4つの要素をMLA各館に割り当て
- 各館はこれらの要素を複合的に持つため、単純な図式で表現するのは難しい
- 各館の強みを持ち寄り、補完し合う意義の確認と、関係性の構築のための試案

※信州大学附属図書館長・渡邊匡一先生（当時）による

※次期「長野県総合5か年計画：しあわせ信州創造プラン」に向けた提言へ

※森 いづみ「大学図書館から公共図書館に飛び出して考えたこと～信州 知の連携フォーラムをきっかけに～」大学図書館研究会 関東地域グループ合同例会（2022年2月5日）

<https://researchmap.jp/izumimi/presentations/36314029>

初回の「信州 知の連携フォーラム」で既に語られていプラットフォーム構想

「信州 知の連携フォーラム」とは

●平賀前県立長野図書館長による「信州 知のプラットフォーム構想」

- ⇒プラットフォーム（システム的な受け皿）があれば、他の機関（県や市町村のMLA）は、載せるコンテンツ創りに注力できる
- ⇒トータルコストは小さく、豊かな共有財（コモン）が育てられる

NIIと大学図書館の
関係に似ている？

※県立図書館は、住民への第一線のサービスを行う市町村図書館を支える役割を持っている
図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年文部科学省告示第172号）「域内の図書館への支援」

2016年の
初回の発表

2019年には
「信州ナレッジ
スクエア」として
実現



第1回～
第2回フォーラム
2016～2017年度



第3回フォーラム
(第1回リレーWS)
2018年度



「信州ナレッジ
スクエア」構築
2019年度



第4～5回フォーラム(第2～3回リレーWS)
2020～2021年度



フォーラム第6回
(リレーWS第4回)
県立美術館が
当番で企画

絵に描いた餅

食べられる餅へ

美味しい餅へ

豊かな学び・地域創生
新たな知識化・発信
地域資源の共有化

※森 いづみ「大学図書館から公共図書館に飛び出して考えたこと～信州 知の連携フォーラムをきっかけに～」大学図書館研究会 関東地域グループ合同例会（2022年2月5日）

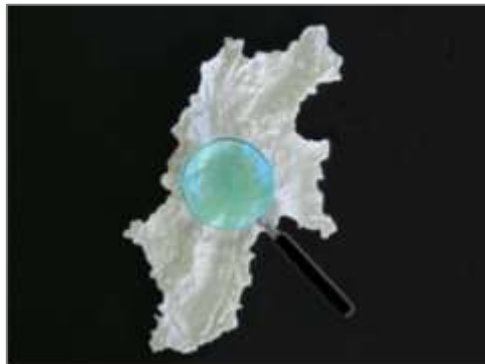
<https://researchmap.jp/izumimi/presentations/36314029>

「信州ナレッジスクエア」とは

- 多様な文化を持つ信州各地に蓄積されてきた地域情報資源のポータル。「ナレッジスクエア」とは「知識の広場」



1. **信州サーチ**：信州に関わるデジタルアーカイブ、データベース、ウェブサイトの横断検索
2. **信州デジタルコモンズ**：信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ
3. **想・IMAZINE・信州**：言葉や文章から連想して、複数のデータベースを検索
4. **eReading Books**：高校の探究学習『わたしたちの信州学』や、小学校の副読本『わたしたちの松川村』のテキストから、新書マップやWikipediaの情報と繋がる。
5. **信州ブックサーチ**：長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種も対象に



信州サーチ

世界から信州を探そう
県内外のデータベースやアーカイブの中から「信州」に関することがらを探し出すことができます。上の検索窓から検索できます。



信州デジタルコモンズ

地域の記憶を記録する
信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブです。



想・IMAZINE・信州

連想の広がりを体験しよう
入力した言葉や文章からキーワードから連想するようにして、思いもしなかった文脈の新たな発見や発想が生まれます。



eReading Books

自分の根っこを確かめよう
本文中の単語やキーワードに関する情報を同時表示する「eReadingシステム」で、身近な地域を学ぶ資料を閲覧できます。



信州ブックサーチ

信州の図書館から本を探そう
長野県内にある図書館の蔵書データをつなぎ、探したい本がどこにあるかを素早く見つけられる検索サービスです。

「信州ナレッジスクエア」の「信州サーチ」→「信州デジタルcommons」を使ってみよう



<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html>

12件見つかりました。

絞り込み

- すべて
- アーカイブ
- 収蔵情報
- 図書・論文
- その他

POWERED BY カ-

生坂村絵図面



資料コード	03MP0801060150
タイトル	生坂村絵図面
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 建築物
場所(市町村名)	<input checked="" type="checkbox"/> 生坂村
制作年(西暦)	1885
制作年(和暦)	明治18年
時代	<input checked="" type="checkbox"/> 明治
制作者	長野県
制作者(ヨミ)	ナガノケン
大きさ	27×69
資料解説	
二次利用条件	<input checked="" type="checkbox"/> PUBLIC DOMAIN
コピーライト	長野県立歴史館
施設名	長野県立歴史館

例：信州サーチで「生坂村」を検索し、「アーカイブ」で絞り込み→信州デジタルcommons「生坂村絵図面」

パブリックドメイン：地域の歴史を学んだり、二次利用して新しいコンテンツを創る材料として活用可能



「信州ナレッジスクエア」の「eReading」を使ってみよう

- 『わたしたちの松川村』：小学校の郷土学習の副読本。付加価値付きの電子書籍化
- キーワードから、ウィキペディアの該当項目や新書マップにリンク

紙のテキストに書かれているのは、固定化された情報 = 重要
しかし、情報の内容を更新するために改訂版を出すのは、なかなかハードルが高い

ネットワーク上の信頼できる情報にリンクしていれば、より新しい情報にアクセスすることが可能！

昭和天皇 下
昭和天皇
日本最初の...
15歳の東京...
よみがえれ! 昭和40年代
昭和天皇

安曇節
安曇節(あずみぶし)は日本の長野県松川村

いわさきちひろ
いわさき ちひろ(本名:松本 知弘(まつもと ちひろ、旧姓岩崎)、1918年12月15日 - 1974年8月8日、女性)は、子供の文学館児童出版文化賞
小学館児童出版文化賞
小学館児童出版文化賞(しょうがくかんじどうしゅっぱんぶんかしょう)は、小学館が1952年に創業30周年を記念して文学

安曇野ちひろ美術館
安曇野ちひろ美術館(あずみのちひろびじ)

中谷泰
中谷 泰(なかたに やすし/なかたに た)

「うち(義父)は最初、一人でしたが、同じ心をお持ちの方と相談しながら進めました。みんな地元の方でした。不況で人の心が荒廃している時で、何か大勢の人のためになることを願って始めたようです。最初は自己資金でやっていたから大変でした。その後、資料や穂高方面の人が援助してくれました。それで歌詞も、その方面のものがたくさん採用されるようになりました」と語るのは息子の嫁の棟業政子。昭和37年(1962)に惜しまれつつ79歳で亡くなった。

参考文献「現代文芸」安曇節 松山出版
「昭和のふるさと」松山出版

いwasaki ちひろ
1918 ~ 1974
絵本画家

プロフィール
大正7年(1918)12月15日、福井県武生市(現・越前市)で生まれ、東京に育つ。本名、知弘。父は軍属の建築技師。母は女学校教師。東京府立第六高等女学校を卒業。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。昭和21年(1946)、ちひろの両親が松川村(現・安曇野ちひろ美術館所在地)で開拓を始める。
昭和31年(1956)、小学館児童出版文化賞受賞。初めての絵本の仕事として『ひとりてできるよ』(福音館書店)を描く。昭和33年(1958)、紙芝居『お月まいくつ』(童心社)を描き、翌年、厚生大臣賞受賞。昭和35年(1960)、『あいうえおのほん』(童心社)を描き、翌年、サンケイ児童出版文化賞受賞。昭和41年(1966)、黒姫高原に山荘を建て、以後、毎年ここの絵本制作を行う。昭和46

豊科町(とよしなまち)は、長野県中西部の南安曇郡にあ
黒姫高原
黒姫山(くろひめやま)は、長野県上水内郡信濃町にある
サンケイ児童出版文化賞
産経児童出版文化賞(さんけい)

は、て19
越
んし
県の
の中南部

武生市(たけふし)は、福井県中部にあった市。福井市に次いで福井県第2の

No image
49/84

「eReading」から広がる知の循環

● 「ウィキペディアタウンin安曇野松川村」を開催

- 2018.03.03
- 「大和田神社」、「安曇野ちひろ公園」、「松川村図書館」（以上、新規作成）
「安曇節」（加筆編集）の4項目を編集

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/7185.html>

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/other/7337.html/>

松川村の魅力を世界に発信！

参加者募集中！

ウィキペディアタウン

in 安曇野松川村

2018年 3 / 3 (土)

午前9時～午後5時 会場：松川村すずの音ホール

先着30名要申込

参加無料

地域を学ぶテキストから、
まち歩きをして現地を訪れたり、
根拠となる文献を調べて
編集した内容にリンク
↓
知が循環する事例

※詳細 棟田聖子氏（松川村図書館）

「電子図書館、どう育てる？」 令和4年度第1回信州発・これからの図書館フォーラム

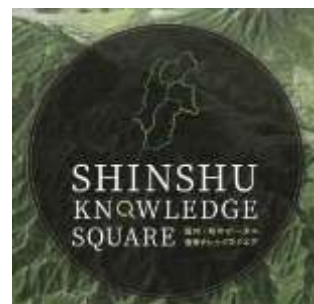
Youtube動画 1 : 46 : 36～

<https://www.youtube.com/watch?v=AArREG-uH9k&t=7132s>

知識循環・知的創造の基盤としての「信州ナレッジスクエア」

- 「信州デジタル commons」 デジタルアーカイブジャパン・アワード 受賞 (2022年8月)

情報の蓄積



情報の活用

事例：

まつもとフィルム commons
松本で撮影した8mmフィルムを
募集し、デジタル化して新しい
地域映画を作成
→信州デジタル commonsで
二次利用可能な形で公開
できるよう、検討中

知の増殖型サイクル：
デジタルアーカイブの
知を利用し、
新しい知を創造する
→課題解決に生かす

活用した成果 = 新たな知が
生み出され、蓄積・循環



「つなぎ役」「二次利用しやすい形での情報公開」を評価していただきました

<https://blog.nagano-ken.jp/library/2022/08/26/>

なぜ、図書館が「知識循環・知的創造」の基盤を担うのか？

● 公立図書館の任務と目標

(日本図書館協会 1989年公表、2004年改訂)

- ✓ 公立図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資するとともに、住民が情報入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場である。

すべての年代の
人々の「知る・学ぶ・
創造する」場

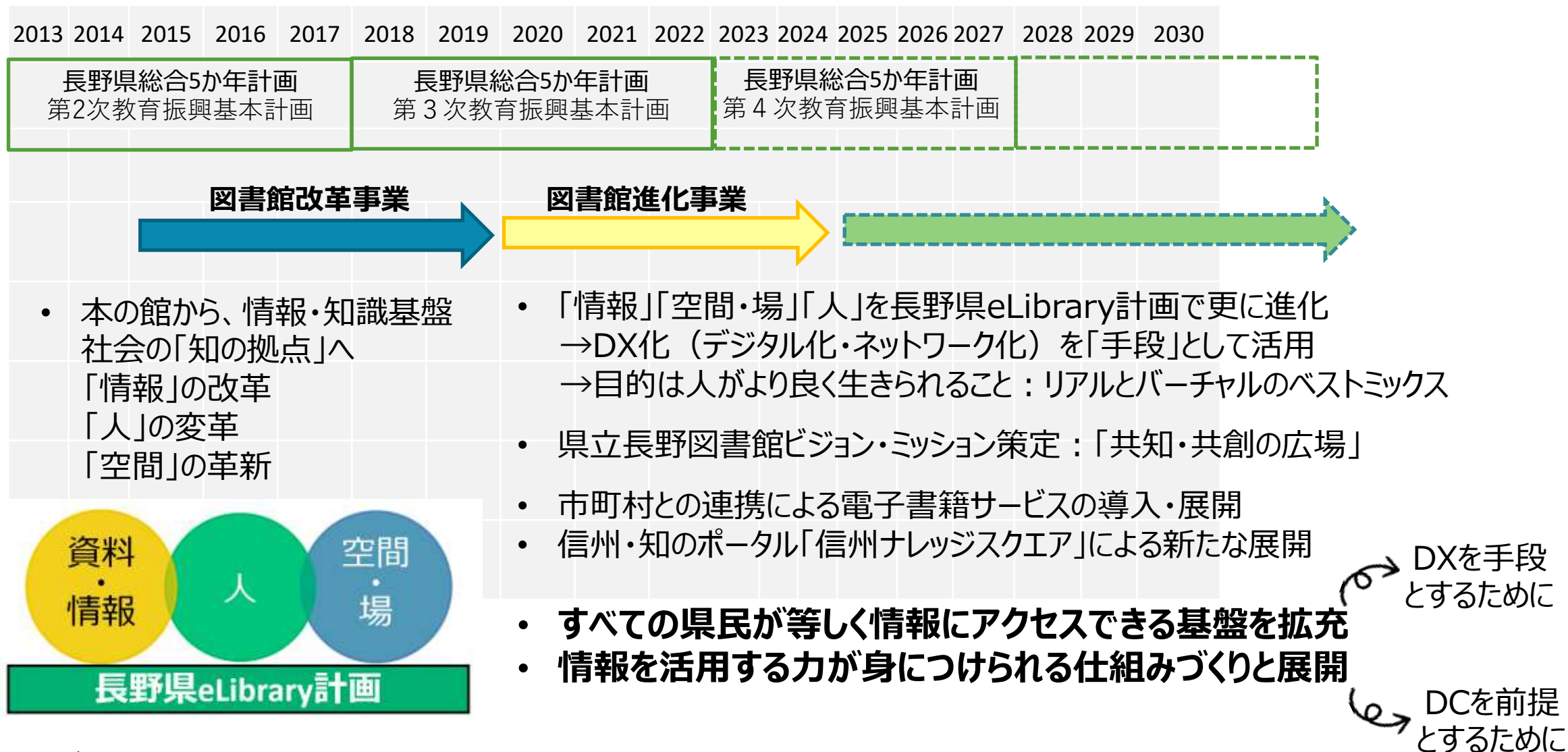
インプットだけではなく
アウトプットまでが
守備範囲

賑わい創出、
地域の課題解決など、
図書館という公共施設の
機能拡張への期待へと
つながる

情報の蓄積
と活用の循環によって
「地域文化」そのものの
「創造」にかかわる

※ 自治体が設置する「公立図書館」と、法人等が設置する「私立図書館」を総称して「公共図書館」と呼ぶ。

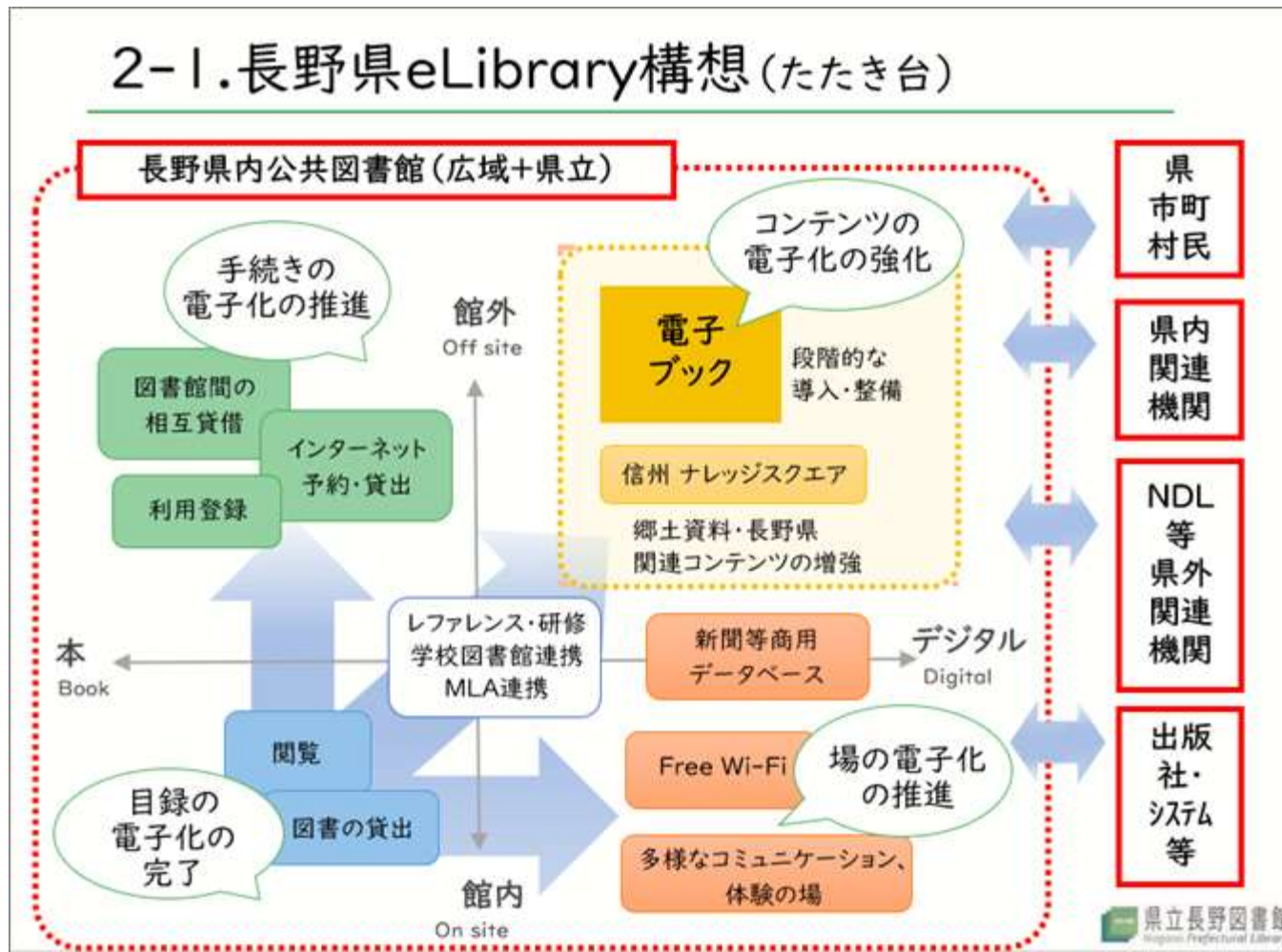
改革事業を受け継いで：目指すべき方向性への進化（深化）



DX：デジタルトランスフォーメーション：

提唱者のストルターマン氏による定義：「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」こと

2-1. 長野県eLibrary構想 (たたき台)



- **もともと持っている機能のフル活用：**
 - ✓ 問い合わせフォームからのレファレンス
 - ✓ インターネット予約の推奨
 - ✓ オンライン利用登録の実現
 - ✓ 館内Free-Wifiの整備、ZOOM活用経験を背景としたイベントのオンライン化、ハイブリッド化
- **商用DBの導入は進めていた**
 - しかし、来館利用のみ（大学と公共図書館の違いを痛感）
- **「信州ナレッジスクエア」（デジタルアーカイブ、地域資源のポータルサイト）2020年3月オープン**
 - オンラインで使えるサービスのメニューとして紹介。
 - MLA機関のデジタルアーカイブのプラットフォームは準備ができていた。
 - しかし現状では、市販の書籍へのニーズが高い。
 - コロナ禍で「特効薬」になるのは、デジタルアーカイブより電子書籍という、需要と供給のミスマッチ
 - 「無料の貸本屋」からの脱却を目指す方向性とのジレンマ
- **「電子書籍」の導入は必須→検討開始**
 - R2年10月の館長会議で初めて提案

「電子書籍」サービスの導入で期待されるすること

「電子書籍」サービスの導入→3つの社会課題の解決の糸口

- 感染症や災害など、どのような状況でも利用者の学びを継続できる。
- 利用者は自宅にしながら図書の貸借が可能。人流抑制にもつながり、**感染リスクの低減**を図ることができる。

学校教育
の情報化

学びの
保障

包摂的な
教育

新型コロナ
ウイルス

非
接触・
移動
削減

読書バリア
フリー法

- 児童生徒がPC・タブレットを使いこなす中で、**探究的な学習を助け**、参考書や問題集などでの学びも提供可能。
- 地理的条件や特別な配慮が必要な子も含め、**全ての子どもに学びの機会**を提供可能。
- 児童生徒が無償で使える**電子書籍で教育格差の是正**につながる可能性。

ナショナルミニマムの
実現策になり得る？

一方で、
更なる情報格差の
要因にも・・・

- 音声読み上げ「文字拡大・ハイコントラスト」等、情報への接しやすさが向上。
- 視覚障害のみならず、聴覚障害、知的障害、高齢者、外国人等や、施設入所者、病院入院患者、子育て中や介護で外出がしにくい等、**さまざまな状況によって図書館の利用や読書が困難な人に、情報を得る手段を増やすことが可能**＝「**情報保障**」手段のひとつ。
- **公正な社会、共生社会の実現**に向けた取組みの推進が可能になる。

「電子図書館」導入は単独では難しいという声が多く、自治体間連携に期待あり

「電子書籍貸出サービス」に関するアンケート結果

※令和3年1月実施、長野県内の公立図書館56が対象。回答率100%

● 導入検討状況：

- ✓ 導入済：1館、検討中：11館、未検討：40館、その他：4
- ✓ 「単独での導入が望ましい」としたのは3館

● 導入に向けての課題：

- ✓ 「予算の確保」約9割、「運用方法に関する懸念」約8割、「コンテンツに関する懸念」が約7割
- ✓ 「利用環境」や、そもそも「住民ニーズ」があるのか、という懸念も5割超

● 望ましい導入の方法：

- ✓ 「コンテンツの選定、利用方法の検討、利用支援のあり方等について、市町村を越えた連携ができること」が7割
- ✓ 「試行的にサービスが行えること」や「複数の市町村が連携して導入できること」が5割超

● 市町村と県による協働事業として事業化を目指す根拠に

【各種コメント】

- ・具体的ではないが、導入の意向は持っている。
- ・村議会一般質問にて議員より質問があった。
- ・資料デモや業者説明等、職員の研修を開催したものの導入には壁が多すぎる。
- ・**図書館が浸水被害に遭い、必要性を痛感している。**

自治体を越えた図書館間連携

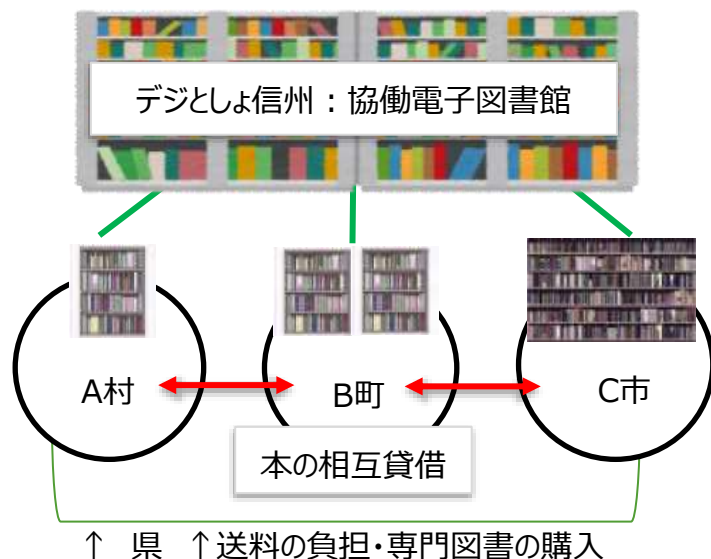
従来からの協力体制の延長線上に、新しい図書館間連携体制を築く

- 共通の課題を解決する方策として、協働電子図書館（仮称）によって、さまざまな「情報格差」の解消を図る。
- 電子化で生じる「情報格差」も起こり得るため、広報や利用支援も協働で取り組む。
- 「誰一人取り残さない」「持続可能な地域・社会」を実現する方策として関係各所の連携を視野に入れる。

解決策

ハイブリッド図書館の場合

- 「電子書籍サービス」を全市町村と県が協働して提供
= 住民サービスの充実



■ メリット

- 蔵書の不足分の増強。付加価値のあるコンテンツ。
- 紙と電子との組み合わせでスペース問題が軽減。
- 図書館が未設置でも電子書籍が使えることで学びの環境が強化。
- 図書館の利用をしていなかった潜在的な利用者層への呼び水となる（読者層が広がる。図書館利用の契機になる）。

■ 期待される効果

- いつでもどこでも情報アクセス
- 情報格差の解消へ一歩前進
→ 学びの多様化・学び手の増加
→ 各自治体の活力増進に期待！

目的や好みに応じて
使いたい媒体を選択



来館でも非来館でも
選択の幅を広げる

図書館登録者は
住民の3割→
7割にリーチしたい

協働事業の構築検討体制 = DX推進の協議会の下に研究WG設置

長野県先端技術活用推進協議会（DX推進課所管）

市町村と県による協働電子図書館(仮称)
協働構築研究WG

WGリーダー

会議の招集/ WG運営に関することなど

県立長野図書館長

WGサブリーダー

市町村のとりまとめ/ R4チーム運営に関することなど

坂城町立図書館長

WGメンバー

情報提供、意見調整/ 事業参加検討/ 提案・意見/ 資料作成など

76団体 ※R4,2/8現在

19市23町30村 + 2広域連合 + 自治振興組合 + 県

R4チームミーティング (TM)

R4作業チーム (作)

総括チーム

利用登録方法チーム

選書方法チーム

仕様チーム

利用者支援・広報チーム

連携協力

長野県図書館協会

公共図書館部会

これからの公共図書館研究会

デジタル活用

資料活用・レファレンス

図書館サービス計画

学びのプログラム・学校連携

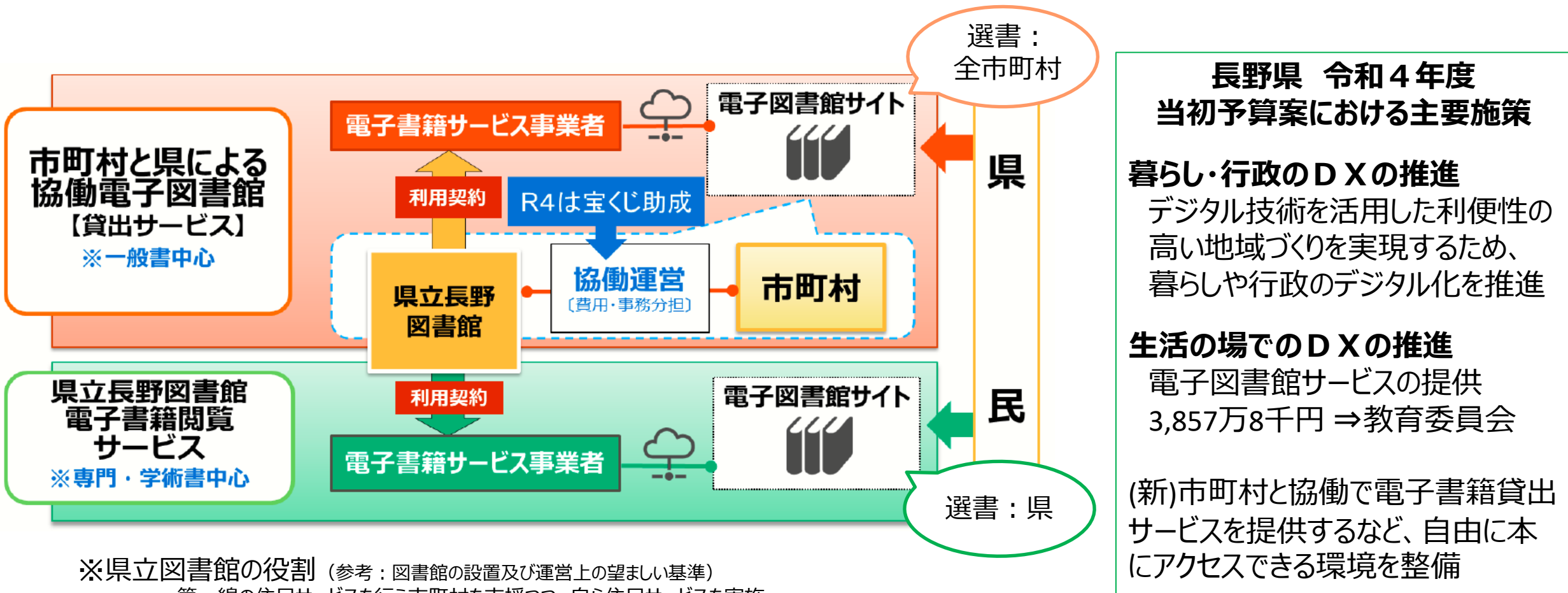
公共図書館を
設置していない自治体にも
参画してもらえる枠組み

- R3年8月キックオフ
発足当初の参加団体：36
- 作業チームミーティング多数
(仕様策定、利用登録、
選書、利用支援・広報)
- 自治体向説明会開催
- 各地区図書館関係会議
- 教育長会議、市長会、町村会、
自治振興組合、市町村振興協
会等への説明
(宝くじ助成金へ繋がる)
- 公共図書館部会から県等への
要望
- 各自治体での予算確保の努力

2つの電子書籍サービス：市町村と県、それぞれの役割を果たすための二層構造

- 「一般書の電子書籍貸出サービス」として、株式会社メディアドゥ「OverDrive」
- 「専門書の電子書籍閲覧サービス」として、株式会社紀伊國屋書店「KinoDen」

プロポーザルを
実施



※県立図書館の役割（参考：図書館の設置及び運営上の望ましい基準）

- 第一線の住民サービスを行う市町村を支援つつ、自ら住民サービスを実施
- 調査専門図書館としての役割
- 郷土資料を網羅的に収集保存提供する役割

市町村と県による協働電子図書館（「デジとしよ信州」）



● 協働の役割分担：

- ✓ 基盤的経費（初期設定費／プラットフォーム費）：県立図書館で契約・維持
- ✓ コンテンツ費：77市町村の負担金（初年次のみ県・企業局子ども支援経費からも拠出）

- 当初コンテンツ数：
（青空文庫11,000点含む）18,000点以上→追加購入
- R4は市町村振興協会の宝くじ助成金をコンテンツ費として支給いただく（R4は負担金なし→R5から集める）
- 長野県内に在住・通勤・通学している人は、誰でも、いつでも、どこからでも利用可能
- 夏のDigi田甲子園：
長野県代表の一つとして出場
[PR動画](#)（1分）
⇒実装部門5位
⇒デジタル庁「デジタルの日」
広報ポスターに起用
⇒早稲田大学マニフェスト
研究所「地方創生カレッジ」
からの取材



市町村と県による協働電子図書館 「デジとしよ信州」の7W1H

- Why 何のため → いつ、いかなる時も、県民の学び・読書環境を、持続・向上させるために
- How どうやって実現するのか → 自治体の枠、組織の枠を越えた協働と図書館DXによって
- Who 誰がやるのか → 県内全ての図書館・図書室、教育委員会、DX担当等が共に
- to Whom 誰へ → 地域・身体・世代・経済的なバリアを越えて、全県民へ
- with Whom 誰と → 学び・読書を通じた県民生活環境向上のステークホルダーと
- What 何をするか、できるのか → 電子書籍のサービスを構築・発展させ、選択の幅を広げる
- When いつやるか(期間・時期) → なるべく早く (R4年度～、5年間プロジェクトで)
- Where どこでやるのか → 約1年間の準備期間 → 全自治体が参画する長野県先端技術活用推進協議会のWGであり方を検討 (8か月)
→ 運営委員会を設置 (4か月)

電子書籍サービス新規導入：
R2年7月、12月に教育長レク実施
意義は認められたが、優先順位は低いという判断
→3度目の正直で、予算要求の事項に

協働事業のコンセプト（プロポーザル説明資料より）

- 市町村図書館と県立図書館との従来からの役割分担を活かしながら、全県民を対象としたサービスを可能にするための枠組みです。
- 全県的に、より多くの豊富なコンテンツを整備し、県民にとって身近なサービス拠点を作ることが重要です。このため、全ての市町村（条例による図書館未設置自治体を含む）と県による事業として構築しています。
- サービス運用にかかる個々の自治体の負担を軽減し、ノウハウを共有できることも重要です。例えば、利用申請のしかたや、広報のしかたなどはひな形を協働で作成して、各自治体で展開します。
- 各自治体が、これまでの図書館サービスと電子図書館を組み合わせ、主体的かつ全体的な視点で取り組める枠組みであることも、大切です。
- 5年間の事業（試行2年、本運用3年）で実績を分析・評価し、その後のサービスのあり方について検討・見直しを行います。

R4年度～の体制（各会議・部会）と規約類との対応



「運営委員会要領」第3条に定める
運営委員の1/2の出席により成立
重要事項の決定機関

- * 「運営規程」に明記するものは全体会議で審議
- * 「運営規程」に明記しないものは総括会議で審議

「デジとしよ信州」を
推進する中心メンバー

「運営委員会要領」第4条に定める

総括会議
議長：運営委員会副委員長
実務面の決定機関
10名程度

運営委員長、副委員長、各部会長、
参加団体及び長野県の推薦する者

オープン情報は
ウェブサイトで公開
内部資料は
職員向けポータルサイトと
MLで情報共有

「運営委員会要領」第5条に定める

利用登録部会
部会員：6名

利用者ID、利用登録にかかる事項
「運営規程」第6条に定める
「利用に関する要綱」
（「運用マニュアル」）
上記にかかる職員研修

選書部会
部会員：15名

コンテンツにかかる事項
「運営規程」第7条に定める
「コンテンツ選書基本方針」
「コンテンツ選書基準」
（「選書の手順」）
上記にかかる職員研修

**利用者支援・
広報部会**
部会員：11名

「運営規程」第8条に定める
利用支援にかかる事項
「運営規程」第9条に定める
広報にかかる事項
上記にかかる職員研修

システム部会
部会員：5名

「運営規程」第10条に定める
システム運用の助言にかかる事項
各部会から1名は必ず参加する

「運営規程」第5条に基づき、「部会募集要項」
を定め、部会員を募集
任期：1年、再任を妨げない、定員は設けない
部会長は部会員の互選で決定する

協働電子図書館の主なターゲット（「コンテンツ選書の手順（コンテンツ内容）」より）

- 利用対象は全県民
- 事業目的にそって、特に以下の利用対象に資することに留意する
 - ✓ GIGA スクール構想等で、電子書籍を読むタブレット等を使いやすい環境にある児童および青少年
(IT リテラシーが高く、電子書籍を利用する障壁が低い傾向がある。
ただし、紙メディアや肉声の良さも考慮しながら、バランスよく活用していきたい)
 - ✓ リアルな図書館に足を運ぶことが困難な高齢者や、読書に関わる障害がある方
(文字の拡大機能などがある電子書籍を、自宅などから居ながらにして利用できることで、読書環境が改善されることが期待できる)
 - ✓ 開館時間に利用することが困難な子育て世代やビジネスパーソン
(24 時間 365 日、来館することなく使える電子書籍によって、図書館の利用が生活スタイルに馴染まなかった層の読書環境が改善されることが期待できる)

「デジとしよ信州」の特集棚（オープニング・セレモニーのデモシナリオより）

● 海こそなけれ、もの（山）さわに

信州は山岳県。山に親しみ、山の恩恵に感謝する山の日と共に、バラエティ豊かな山の本を紹介します。例えば・・・週末に向けて、「山ご飯」の本と「ルート案内」の本を借りる、なんてどうでしょうか。登山に何冊も本を持って行くのは大変ですが、電子書籍なら、いつでもスマホから呼び出せます。

● 「ビジネスに効くスキル特集」

仕事の手法も、効率も、働き方も、みんなが気になっている分野を選びました。

● 「子育て応援します！」

子どもが小さくて図書館へ行く余裕がなかったり、買い物中など外出先で調べられる便利な本をあつめました。

● 歴史や科学を学べる話題の「漫画」も、けっこう取り揃えています。

● 「いまこそ読みたい文芸書」

名作から、最近のものまでいろいろありますが、最近、小さい文字が読みづらいという方も、電子書籍のメリットを体感していただけたらと思います。

お一人お一人の「知りたい」「読みたい」「学びたい」に寄り添い、これまで、図書館を使ったことがなかった人にも、興味を持ってもらえるような、「デジとしよ信州」。ぜひ、ご期待ください！

アウトプット、アウトカムを見える化する

● 協働電子図書館の利用者IDの仕様と目的：

- ✓ 識別番号（市町村：Mor県：P）1桁 + 市区町村コード（3桁） + 利用者生年（西暦4桁） + 市町村・県の図書館利用カード番号（桁数任意）

- 市町村ごとの住民の利用実態について、統計が取れる
⇒ニーズの把握ができる
- 年代・世代ごとの利用動向が見えてくる
⇒プロモーションをするターゲット
⇒選書方針への参考になる
- リアル図書館の利用実態との比較（新たな顧客層の開拓状況）や、相乗効果が確認できる
⇒県の電子申請を用いて電子図書館を利用している住民数も市町村に報告

留意事項

- 「図書館の自由に関する宣言」の趣旨に則り、個人IDと電子書籍貸出情報の紐づけは行いません（データを持たない）
- ビッグデータとして統計処理を行いサービス向上に役立てる

● 投資効率の向上への期待

- ✓ 住民の図書館利用率、蔵書（電子書籍）の貸出回転率の向上

● 顧客満足度向上への期待

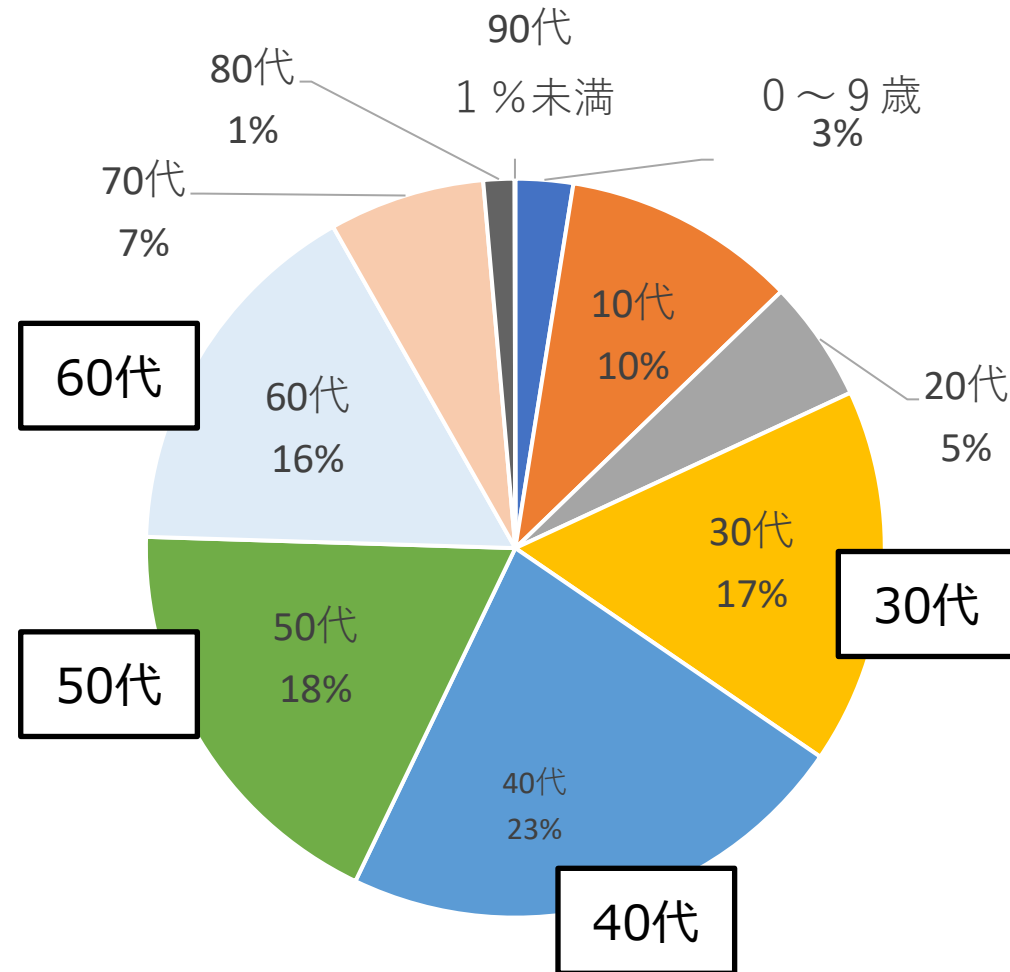
- ✓ 地域の活性化、課題解決力の向上、図書館の存在意義、予算要求の根拠へ

「デジとしよ信州」の利用実績（11月5日現在）

- **利用登録数**：8,324人
- **貸出数**：26,889冊
 - ✓ スタート当初と比べてやや落ち着くもののコンスタントに増加
- **貸出者年代**：
 - ✓ 貸出者の年代は全世代に及ぶが、40代が最も多く、全体の23%を占める。
 - ✓ 50代：18%、30代：17%、60代：16%と続く。
 - ✓ 一般的に公共図書館の利用は、子どもとシニアによく利用されるM字カーブを描くため、従来は利用が少なかった年代にリーチできていると見ることができる。
 - ✓ 10代が約10%、20代が約5%と少ないが、10代は学校との連携によって、20代は大学との連携によって、今後利用が伸びることが期待される。

- 無精者で図書館に行く習慣も本を持ち歩く習慣もなかったが、隙間時間が読書タイムとなり、読書量が一気に増加。
- 普段読まないジャンルにも気軽に挑めている。
- 身近なサポート役として、地域の図書館に期待。

（「市民タイムズ」2022.10.2より）



貸出者の年代

信州ブックサーチの活用による、蔵書 + 電子書籍の検索・発見の仕組み

- 県内公共図書館のOPAC, 2つの電子書籍を一括で検索できる



地域で絞り込み	タイトル	著者名	出版者	出版年	ISBN	所蔵館					
すべて	世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域 料理の作り方を通して知る歴史、文化、宗教の食規定	青木ゆり子	誠文堂新光社	2020	9784416620175	<input type="checkbox"/>					
県立長野図書館	22館所蔵	<input type="checkbox"/> 県立長野 <input type="checkbox"/> 松本市 <input type="checkbox"/> 塩尻市 <input type="checkbox"/> 安曇野市 <input type="checkbox"/> 大町市 <input type="checkbox"/> 池田町 <input type="checkbox"/> 白馬村 <input type="checkbox"/> 松川村 <input type="checkbox"/> 木祖村 <input type="checkbox"/> 朝日村 <input type="checkbox"/> 長野市 <input type="checkbox"/> 須坂市 <input type="checkbox"/> 千曲市 <input type="checkbox"/> 諏訪地域 <input type="checkbox"/> 駒ヶ根市 <input type="checkbox"/> 南信州地域 <input type="checkbox"/> 佐久市 <input type="checkbox"/> 御代田町 <input type="checkbox"/> 上田地域 <input type="checkbox"/> デジとしょ信州 <input type="checkbox"/> 「デジ									
中信エリア											
北信エリア											
南信エリア											
東信エリア											
大学など											
電子図書館							<input type="checkbox"/> 県立電子書籍 <input type="checkbox"/> 「県立電子書籍」のつかいかた				
世界							世界の郷土料理事典 全世界各国・300地域料理の作	青木 ゆり子/著	誠文堂新光社	2020.06	
世界							世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域料理の	青木 ゆり子			

県内の書店情報に繋がられないか検討中

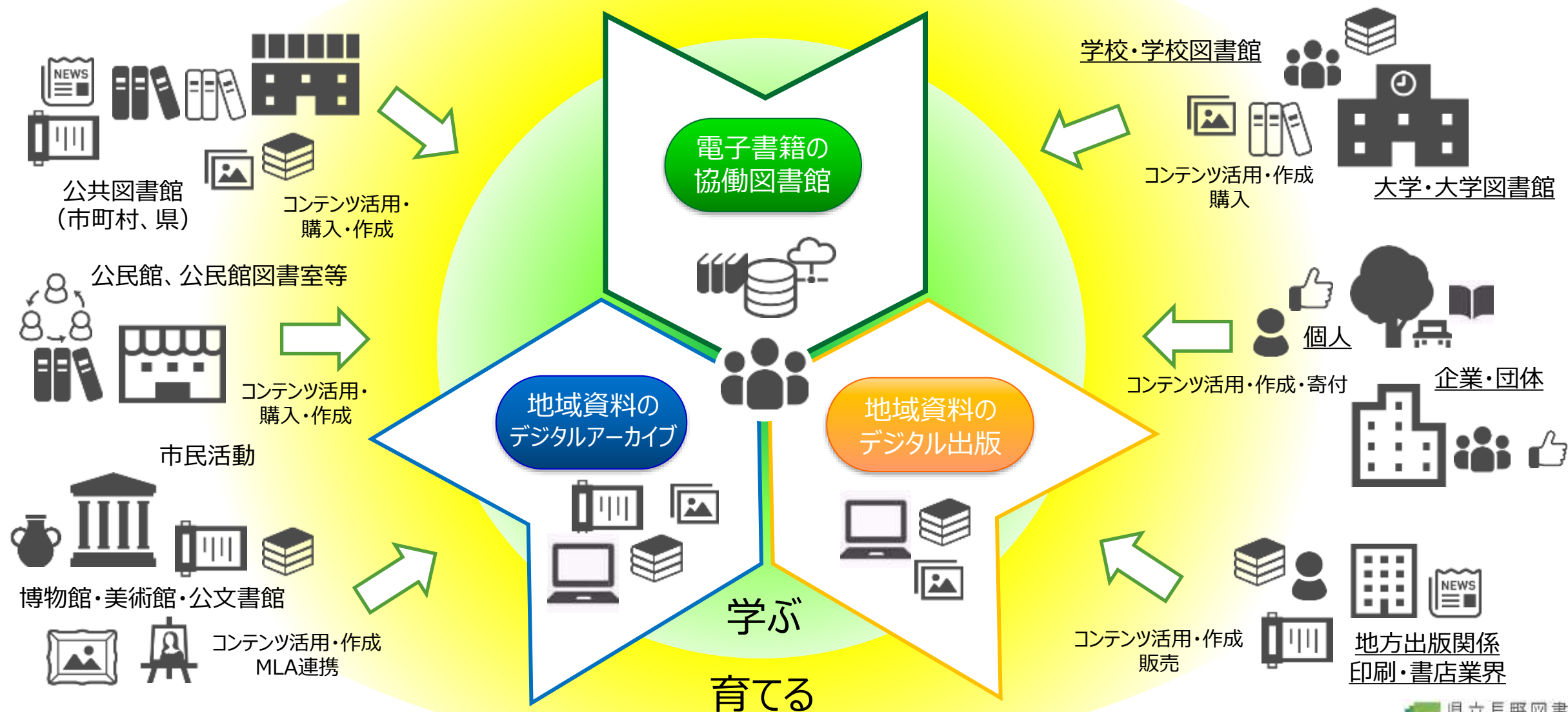
「デジとしよ信州」今後の重点取組事項：3つのチームを立ち上げて取組中

- 電子書籍サービス（インターフェイス、コンテンツ内容）の充実・予算の確保：
 - ビジネスモデルとコレクション構築のバランス、紙と電子のバランス（出版点数との兼ね合い）
- 読書バリアフリー：
 - 視覚障がい者向け電子図書館サービス「アクセシブルライブラリー」の早期導入や、福祉関係団体と連携して障がい者向けサービスの総合的な展開の検討
 - 情報リテラシー向上
- 学校教育との連携：
 - 教育現場や家庭等の方針に配慮しつつ、希望する自治体・学校と連携して、教材利用等授業での活用、学校図書館との連携などの方策を検討
- 地域資料の充実：
 - 学校の副読本、自治体作成のオリジナルコンテンツを電子書籍化、デジタルアーカイブ化
 - 地域出版物の有料コンテンツ化・アーカイブ化
- 著作権者や本に関わる関連業界（出版・印刷・書店・取次）とのWin-Winな関係作り

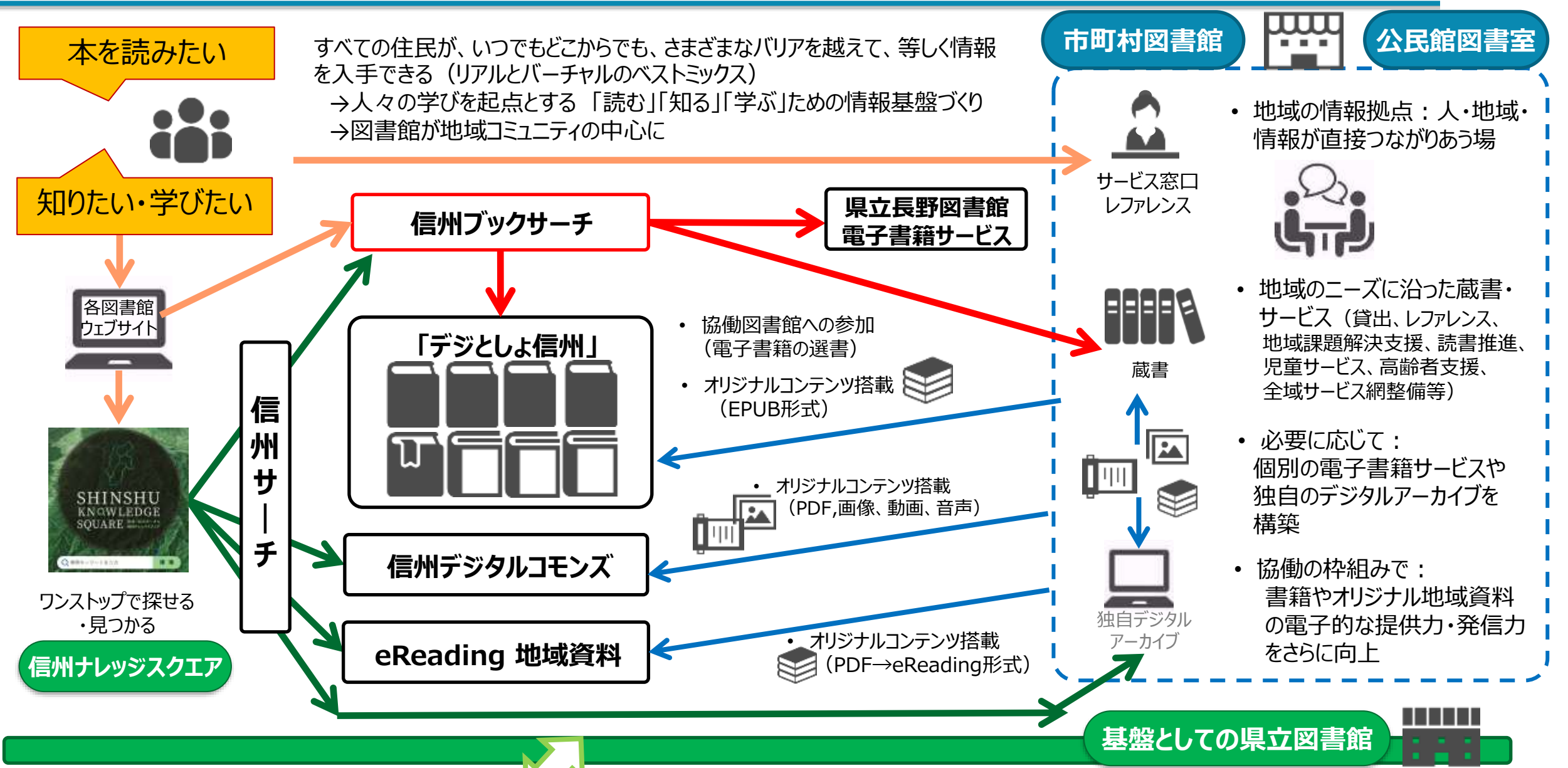
「デジとしよ信州」
のサービススタートは
ゴールではない

さらに大きな枠組みで共有していきたいビジョン（検討中）

みんなで学ぶ・みんなで育てる「all信州電子図書館」⇒ 地域文化の創造・地方創生

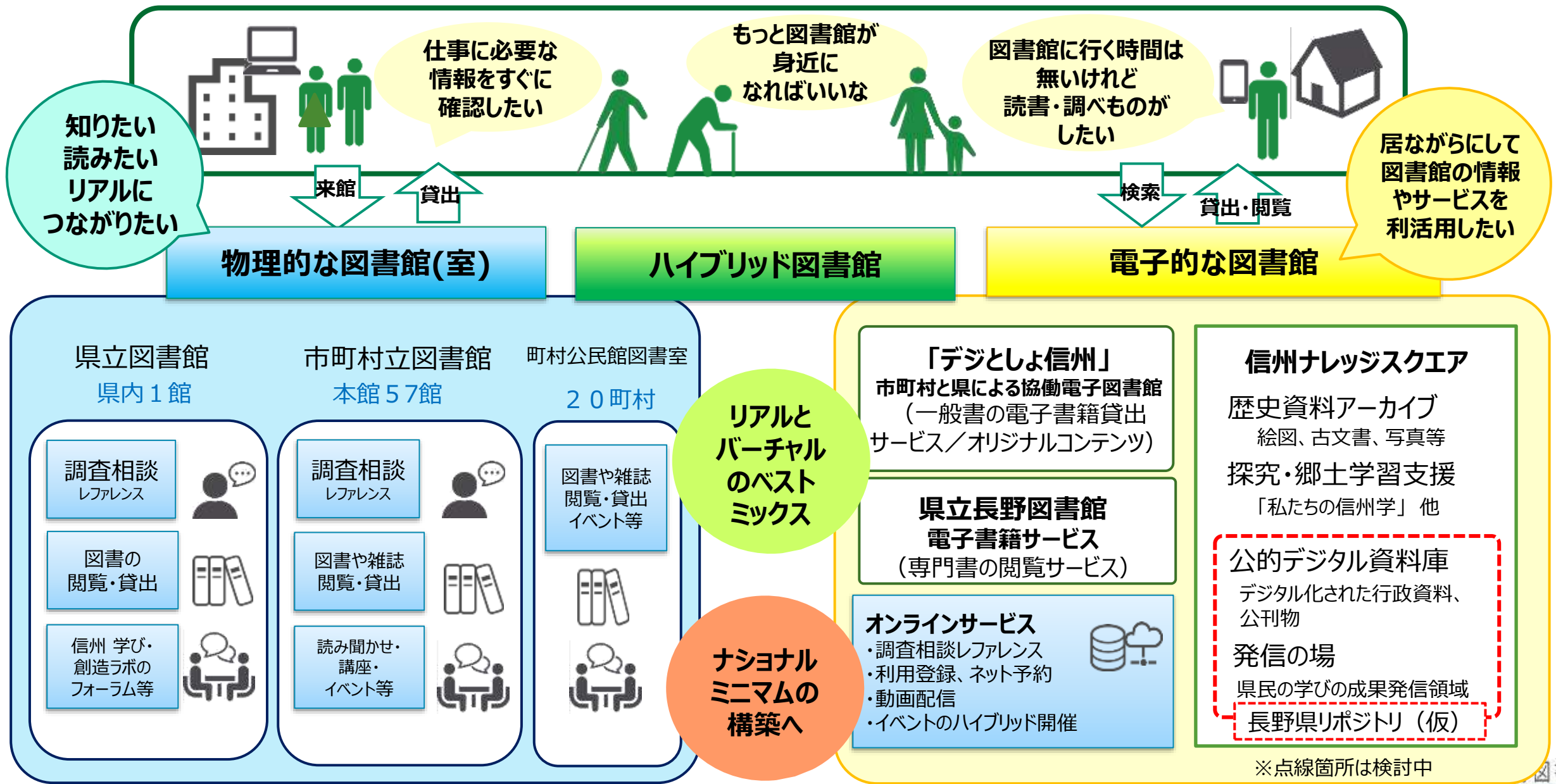


信州サーチの活用による、蔵書 + 電子書籍 + デジタルアーカイブの検索・発見の仕組み



「ジャパンサーチ」や「NDLサーチ」等との連携

だれ一人取り残さない公正な社会のために“図書館だから”できること



知りたい
読みたい
リアルに
つながりたい

仕事に必要な
情報をすぐに
確認したい

もっと図書館が
身近に
なればいいな

図書館に行く時間は
無いけれど
読書・調べものが
したい

居ながらにして
図書館の情報
やサービスを
利活用したい

物理的な図書館(室)

ハイブリッド図書館

電子的な図書館

県立図書館
県内 1 館

市町村立図書館
本館 57 館

町村公民館図書室
20 町村

- 調査相談
レファレンス
- 図書の
閲覧・貸出
- 信州 学び・
創造ラボの
フォーラム等

- 調査相談
レファレンス
- 図書や雑誌
閲覧・貸出
- 読み聞かせ・
講座・
イベント等

- 図書や雑誌
閲覧・貸出
イベント等

リアルと
バーチャル
のベスト
ミックス

ナショナル
ミニマムの
構築へ

「デジとしよ信州」
市町村と県による協働電子図書館
(一般書の電子書籍貸出
サービス/オリジナルコンテンツ)

県立長野図書館
電子書籍サービス
(専門書の閲覧サービス)

- オンラインサービス
- 調査相談レファレンス
 - 利用登録、ネット予約
 - 動画配信
 - イベントのハイブリッド開催

信州ナレッジスクエア
歴史資料アーカイブ
絵図、古文書、写真等
探究・郷土学習支援
「私たちの信州学」他

公的デジタル資料庫
デジタル化された行政資料、
公刊物

発信の場
県民の学びの成果発信領域
長野県リポジトリ (仮)

※点線箇所は検討中

参考：第12期長野県生涯学習審議会「提言」

基本理念 **すべての人がつながり、学び合い、共に変わり続ける“シン・生涯学習社会”へ**

真 生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ

- ◆ 大人は「学び終えた人」ではない
- ◆ だれもがマルチステージの人生を実現させていく意思と能力を、生涯にわたり持ち続け、それぞれが思い描く幸せに向かって自己変容していくことができる
- ◆ 学びによって、だれもがWell-beingを実感できる長野県を目指す

新 いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

- ◆ 最新のテクノロジーを最大限活用
- ◆ 年齢によらず「いつでも」学べる
- ◆ 場所の制約なく「どこでも」学べる
- ◆ 「だれとでも」つながり、学び合える
- ◆ 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ

信 学び合いから「信」頼を紡ぐ。一人ひとりが生きる持続可能な地域社会へ

- ◆ 「答えのない問い」に対して、地域の特性に応じた「自分たちの答え」を探究していく
- ◆ 対話を繰り返しながらつながり、知恵を持ち寄り、信頼を紡いでいく
- ◆ 支える、支えられるという関係を越えて、みんなが主役に
- ◆ 誰一人取り残されることのない、持続可能な地域社会を創っていく

施策の方向性

「生涯学習者」の育成

- ✓ 子ども達の好奇心や感性を刺激し、探究的な学びにつながる環境づくり

働く世代、子育て世代の学び直し、つながりづくり

- ✓ リカレント教育・リスキングの推進
- ✓ 学びほぐし、共創のためのサードプレイス（第3の居場所）づくり
- ✓ 子育て世代の居場所づくり

シニア世代の多様な学びの推進

- ✓ 年齢や心身の状態にかかわらず学び合える場の充実

学びの新しい基盤整備

- ✓ 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
- ✓ オンライン学習の活用推進
- ✓ デジタル技術を活用したバリアフリー推進

デジタル・ディバイドの解消

- ✓ 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- ✓ 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

社会的包摂の推進

- ✓ 障がい者の生涯学習の推進
- ✓ 国籍、経済状況、孤立・孤独等、様々な事情で学びの機会に恵まれていない人、困難を抱える若者等への学習機会の提供

多様性を活かした地域コミュニティづくり

- ✓ 世代、職業、個性が混ざり合い、誰もが仲間づくり、地域づくりができる公民館活動の推進
- ✓ 公民館等の社会教育施設で、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出すコーディネーターの育成と連携
- ✓ 学校と地域、家庭が互いに成長するスクール・コミュニティの推進

※典拠

「これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言」(第12期長野県生涯学習審議会)
(令和4年10月12日)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/goannai/shingikai/shingikai/shogai/>

いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

● 最新のテクノロジーを最大限活用

- 年齢によらず「いつでも」学べる
- 場所の制約なく「どこでも」学べる
- 「だれとでも」つながり、学び合える
- 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ

● 学びの新しい基盤整備

- 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
- オンライン学習の活用推進
- デジタル技術を活用したバリアフリー推進

● デジタル・ディバイドの解消

- 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

DXを手段とし、DCを前提とした連携で、ナショナルミニマムを実現したい

- 県民が豊かな情報基盤を活用して、主体的に学び合い、「知の循環」を創り出す
→ **学びの県づくり ～共に学び合い、共に価値を創る～**
- 地域・身体・世代・経済的な、あらゆる情報格差のない生涯学習の環境となる
→ **だれ一人取り残さない公正な社会の一画を担う**
- 図書館DXによって、県民一人一人のライフスタイルに寄り添うハイブリッド図書館として、それぞれのリアルとバーチャルのベストミックスを実現する
→ **不易流行の精神で、時代の要請に応え、新たな社会的価値の創造を後押しする**

地域の情報拠点として
すべての取組に共通すること：
「使ってもらう」だけでなく
「共に創る」観点を持つ
+ **対話とプロセスを重視**する

県立図書館の役割：
自らが図書館サービスを行う「プレイヤー」
であるとともに、**協働のためのシステム基盤**や
活動の基盤を提供する
「プラットフォーム」になる

いついかなる時も、人々の
「知る」「学ぶ」を支えるために。
「これからの図書館(MLA
機関)」を考えること =
「これからの社会」を
考えること

使命 (Mission)

県立長野図書館は、「共に知り、共に創る広場」として、
信州に関わるすべての人々が「自由に考え、意見を表明し、社会に参画し、意思決定することで、
個人と社会の幸福を追求する」という、民主的社会的な普遍的な価値を支えるため、
人類社会の文化的な発展と平和な世界に、将来にわたって寄与しつづけます。

展望 (Vision)

- 「知る」・・・情報の改革：いつでもどこからでも、時間と空間を越えて、すべての人々が等しく情報入手し、活用し、成果を発信できるよう、人生を豊かにする創造的な学びの情報基盤を整え、情報格差を解消し、次世代へと継承していきます。
- 「出会う」・・・場の革新：考え、対話し、体験することを通じて獲得できる「実感ある知」の循環を生み出し、新しい価値を創り出すために、実空間と情報空間が融合する、開かれた場を形成します。
- 「育む」・・・人の変革：いかなる社会変化にあっても、「知る自由」「学ぶ自由」を保障する図書館の本質的機能を、技術革新を取り入れながら最適化し、最大限活用できる人づくりに貢献します。

行動指針 (Value)

協働します：(Collaboration コラボレーション)

県内外の図書館や各種の文化施設・社会教育施設を始め、広く教育・学术界、産業界や社会的活動を行う人々と力を合わせます。

接続します：(Connecting コネクティング)

さまざまなコミュニティや人々が信州の自然や社会の営みの中で日々生み出す、「現場にある知」、「暮らしの中の知」を、つなぎ合わせます。

強みを生かします：(Competency コンピテンシー)

図書館の普遍的な役割である資料・情報の収集・保存・発信・活用について、専門的な知識・スキル・マインドを持つ職員を育成し、強みを生かして社会に貢献します。

挑戦します：(Challenge チャレンジ)

市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長する、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場 (2021年7月16日策定)

事業計画 (Action Plan)

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

- (1) **資料・情報** : いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。
- (2) **空間・場** : 実空間である図書館の1～2階のフロア、3階の「信州・学び創造ラボ」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。
- (3) **人材育成** : 潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。
- (4) **長野県eLibrary計画** : 図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4つのカテゴリーに分類し、それぞれ最適な方法でデジタル化・ネットワーク化を進め、図書館機能・サービスを進化させます。「信州 ナレッジスクエア」の拡充と、**電子書籍サービスの新規導入の検討**を重点的に進めます。

※令和3年度 主要事業実施状況 (令和3年度第2回県立長野図書館協議会 資料No.2)

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/99/shiryo2.pdf>